



ません



「ごみ0作戦」で集まったごみ(町保健センター前)
参加された皆さん、お疲れさまでした

10年ぶりに町内一斉清掃

「ごみ0作戦」復活

「自由参加型」の活動に
団体・個人が積極姿勢

震災後初となった今回の「ごみ0作戦」には、早朝から町内各地区の自治会や関係団体など

4月29日、町をきれいにし、不法投棄をさせない環境づくりの一環として、町内一斉「ごみ0作戦」が行われました。町内の美しい景観を守るため震災前にも行われていたこの活動ですが、このところ不法投棄が多発し、後を絶たないことから、今回、町民の皆さんの協力を得て、10年ぶりの復活となりました。本町には、他に誇る観光スポットとなる自然景観も多数存在することから、町ぐるみで不法投棄を「しない・させない・許さない」環境づくりを進めることがとても大切です。今号では「ごみ0作戦」当日の模様や不法投棄の現状を見詰めてみます。

が参加。団体独自の清掃活動に合わせたり、地域住民に参加の声かけをしたりなどして、各地区で積極的な取り組みが行われました。自由参加型としたことから、個人で自宅の周辺などのごみ拾いを行う様子もあちこち

可燃・不燃ごみで1.4ト
タイヤなどの産業廃棄物も収集

皆さんが拾ったごみは、可燃ごみが約880キログラム、不燃ごみは約510キログラムに達したほか、タイヤなどの産業廃棄物もあり、大量のごみが集まりました。

で見られ、前日から取り組む人も見受けられました。雨が降る中での活動でしたが、多くの住民が手に袋を持ち、無責任に投げ捨てられたごみを拾いました。



ごみが散乱する四十八坂の不法投棄現場

不法投棄 許し

可燃ごみは、汚れたペットボトルや食品トレーが多く、不燃ごみの大半を占めたのは、アルミ缶です。軽量でかさばるごみが多いため、回収後の撤去作業には、2台トラックと軽トラックが2台ずつ必要となりました。捨てられている場所は道路脇や公園、海岸などで、訪れた人がポイ捨てしたのと思われまます。中には、空き缶がビニール袋にぎつしりと詰め込まれ、放置されているものもありました。

国立公園「四十八坂」は 昨年撤去も再びごみ散乱

町では、昨年12月8日に不法投棄が目立つ三陸復興国立公園四十八坂のごみの撤去作業を行いました。撤去されたごみは、可燃、不燃、粗大ごみなどが2台トラック2台分。電気ストーブ、扇風機などの電化製品のほか、複数の書類も見つかり、明らかに本町の住民が捨てたと思われる物もありました。

この撤去作業から4カ月後の今年4月には、新たにテレビや洗濯機、人工芝、植木などが捨てられ、車から投げ捨てたと思われる空き缶やペットボトル、タバコなども多数散乱していました。「ごみ0作戦」に合わせ、

ポイ捨ても犯罪です 違反者は懲役や罰金

決められた場所や方法以外でごみを捨てる『不法投棄』は、重大な犯罪です。廃棄物の処理及び清掃に関する法律第16条で「**何人も、みだりに廃棄物を捨ててはならない**」と、定められています。違反した場合は、5年以下の懲役もしくは、1千万円（法人の場合は3億円）以下の罰金、またはこの両方が科せられます。これは道端などに空き缶やタバコなどの小さなごみを捨てる行為『ポイ捨て』も同様です。

宮古警察署では、回収した不法投棄のごみから個人を特定し、捜査している案件もあります。

『不法投棄』や『ポイ捨て』が違反行為に当たるということを改めて認識し、ごみはルールを守り、責任を持って処分しましょう。

船越地区自治連合会と共同で撤去したところ、粗大ごみのほか、可燃ごみは20袋に及びました。四十八坂の展望台からは素晴らしい景観が望めますが、その足元にはごみが広がっています。

海岸に向かって捨てられているごみは、船越湾へ流れ込み、豊かな海が汚されています。日々、海側から様子を眺めている漁業関係者もこの現状をとても嘆いています。

町全体で監視の目を強めよう

これまでも各地区では、自治会や住民組織、企業などで定期的に清掃活動を行い、町内の美しい景観づくりに取り組んできました。それでも絶えず捨てられるごみには、地域住民の皆さんも困っています。

今後、町では関係機関と連携し、定期的にパトロールを行うなど、より監視体制を強めていきます。

町民の皆さんには不法投棄撲滅のため、日ごろから監視の協力をお願いします。不法投棄を見かけた場合は、大ききさの大小にかかわらず、次の内容を分かる範囲でご連絡ください。

▽内容 ▼発見日時▼場所▼ごみの種類▼規模▼行為者

◆連絡先・問い合わせ 町町民課環境衛生係 ☎82-3111
1内線125へどうぞ。